

Do It Yourself!!

Bohning Tower フレッチングシステム 使用方法



1. Bohning Tower フレッチングシステム

1.1: Bohning Tower フレッチングシステム(2Page)

1.2: 各パーツ説明(5page)

1.3: 組立(8page)

1.4: 使用方法(10page)

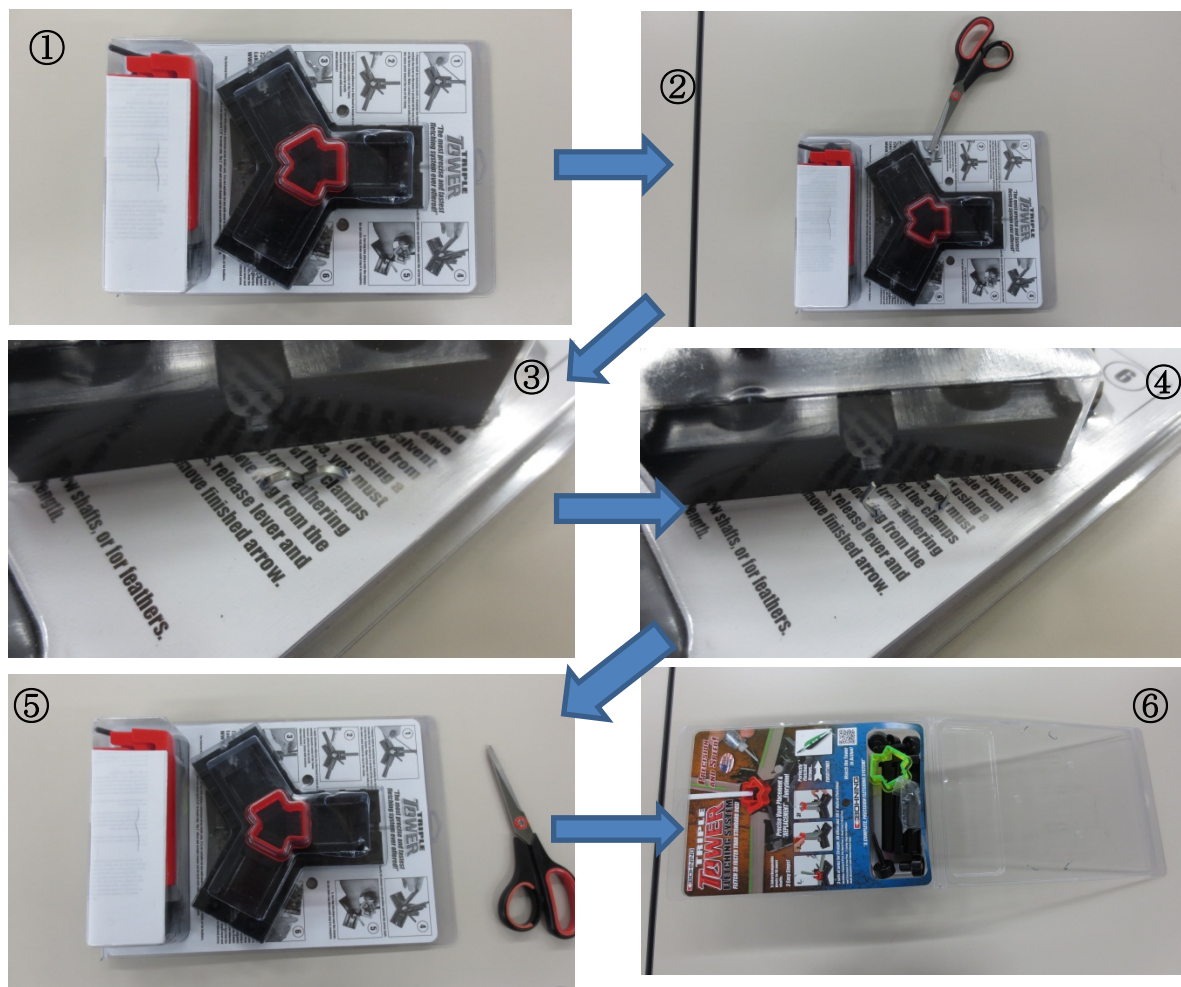
1.5: 解体(13page)

1. Bohning Tower フレッシングシステム

1.1: Bohning Tower フレッシングシステム

1.1 各パーツ説明

各パーツを説明する前にまずパッケージの開封方法を説明します。解体し、パッケージにしまう必要がある場合は、無理に開けないよう注意してください。



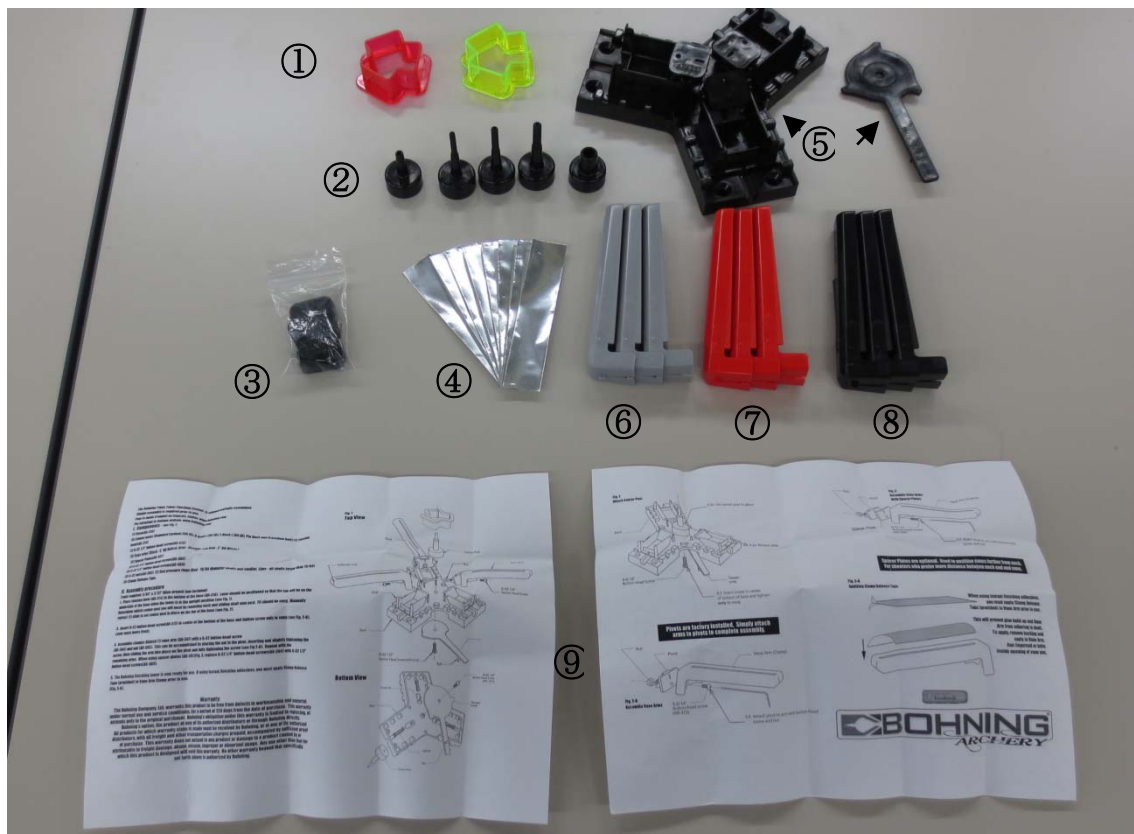


図 1.1 Bohning Tower フレッチングシステム セット内容

- ① スライドリング：赤と緑の 2 色があります、シャフトの大きさによって使い分けてください(シャフトが太い場合は緑、細い場合は赤を使用して下さい)。
- ② シャフト固定用ポスト：シャフトの種類によって、5 種類の中から使い分けてください。(図 1.1 の左からの順番である)

PIN NOCK : 内径 3.25mm PIN NOCK を装着しているシャフトに適用

“F” NOCK 164ID: 外径 4.15mm ACE や VAP 等のシャフトに適用

“A” NOCK 201ID: 外径 5.15mm

STANDARD CARBON 240ID: 外径 6.1mm 主にスーパーノックを使用するシャフトに適用

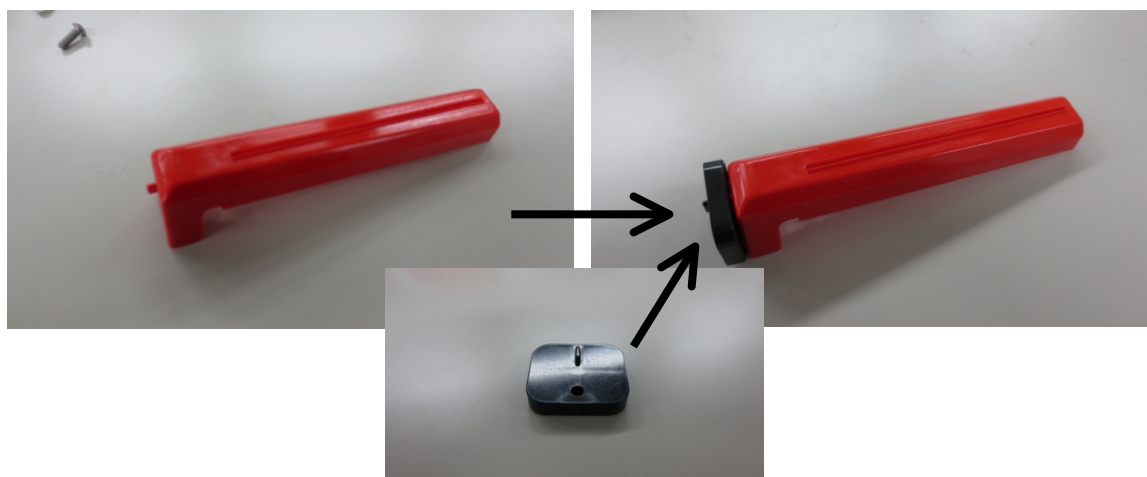
CROSS BOW BOLT: 内径 8.85mm 主にクロスボウで使用されるシャフトに適用

③ 付属部品



パックの中の部品は上写真のように5種類の部品が入っています。

1つだけあるシルバーのネジは図1.1の⑤を組み立てる際に使用し、3つあるネジはブラックとシルバーの2種類あります。通常はシルバーのネジと六角ボルトを使用し、⑥～⑧のアームを取り付けます。ブラックのネジは羽根を貼る際のノックからの位置を調節する際に上図の下にあるプレートをアーム下部に取り付けることでノックからの距離を6.3mm程離すことが出来ます。



④ アルミテープ：羽根を貼る際にアームを汚さないために使用するテープです。数に限りがありますので、調達するのに面倒な方は、セロハンテープ等で代用することが出来ます。

※タワーをラッピングしない状態での羽根の貼付をすると、羽根をセットする隙間に接着剤が入ります。今後の貼付にフレッチングシステムのクリアランスを大幅に下げる恐れがあります。

⑤ フレッチングタワー本体(組み立て方法は2.2節に示す)

⑥ ペインアーム(グレー)：ピッチ角0度、4インチまでの羽根に適用

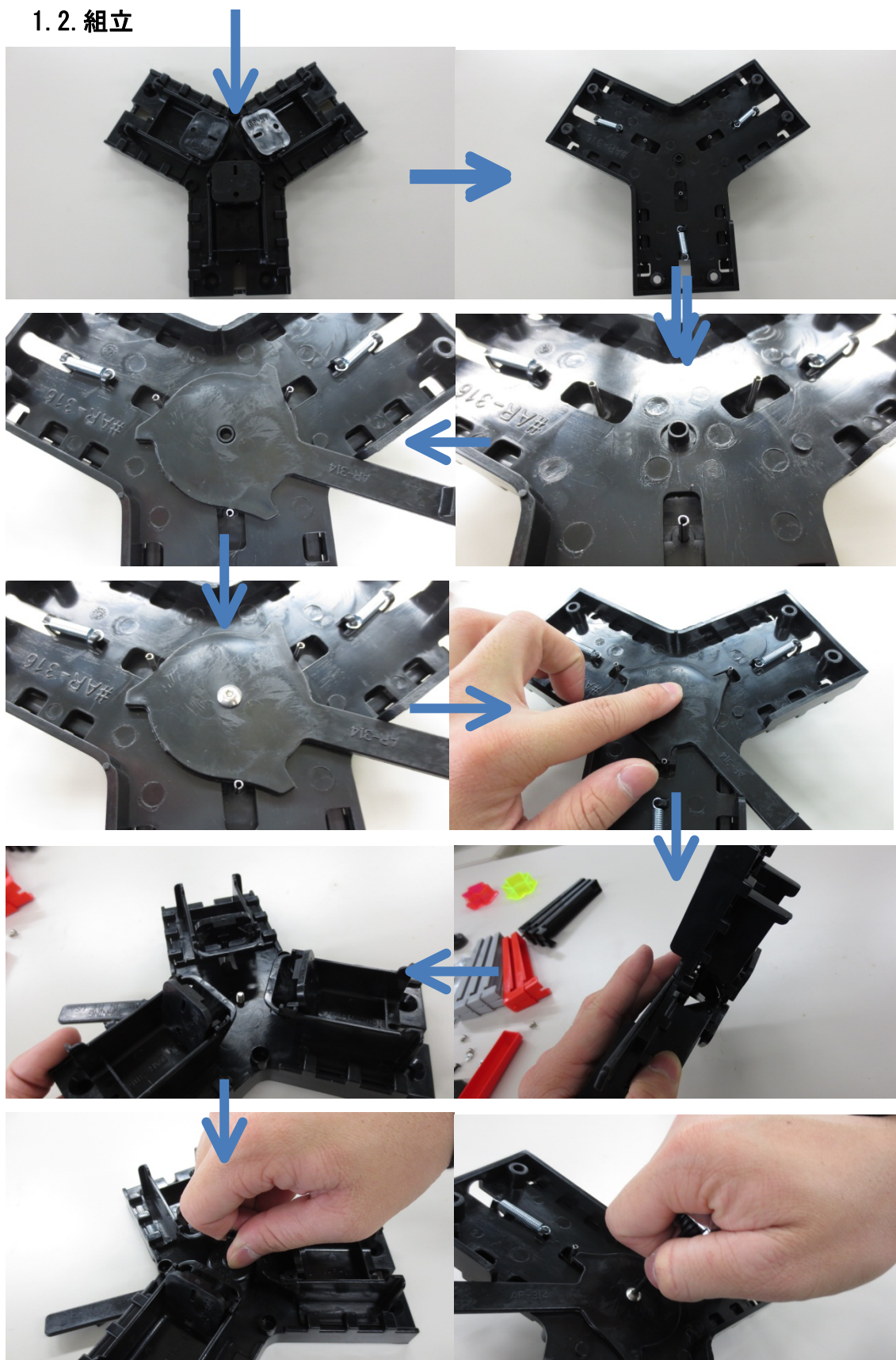
⑦ ペインアーム(レッド)：右ピッチ角2度、4インチまでの羽根に適用

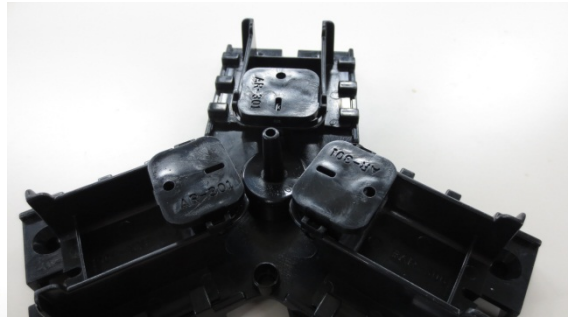
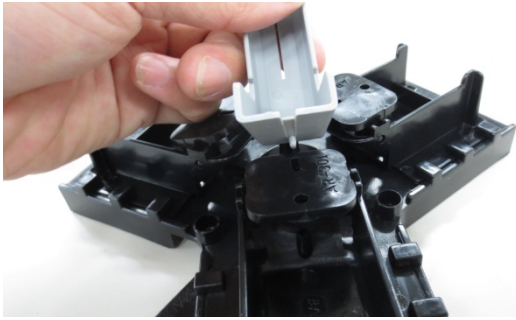
⑧ ペインアーム(ブラック)：右ピッチ角3度、2.25インチまでの羽根に適用

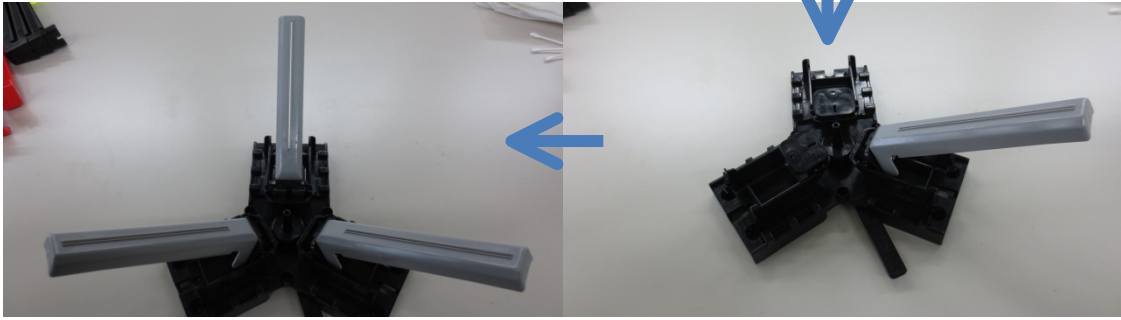
*：鳥羽根(フェザー)等の幅が太い場合アームの隙間にセットすることが出来ませんのでご注意ください。

⑨取扱説明書

1.2. 組立





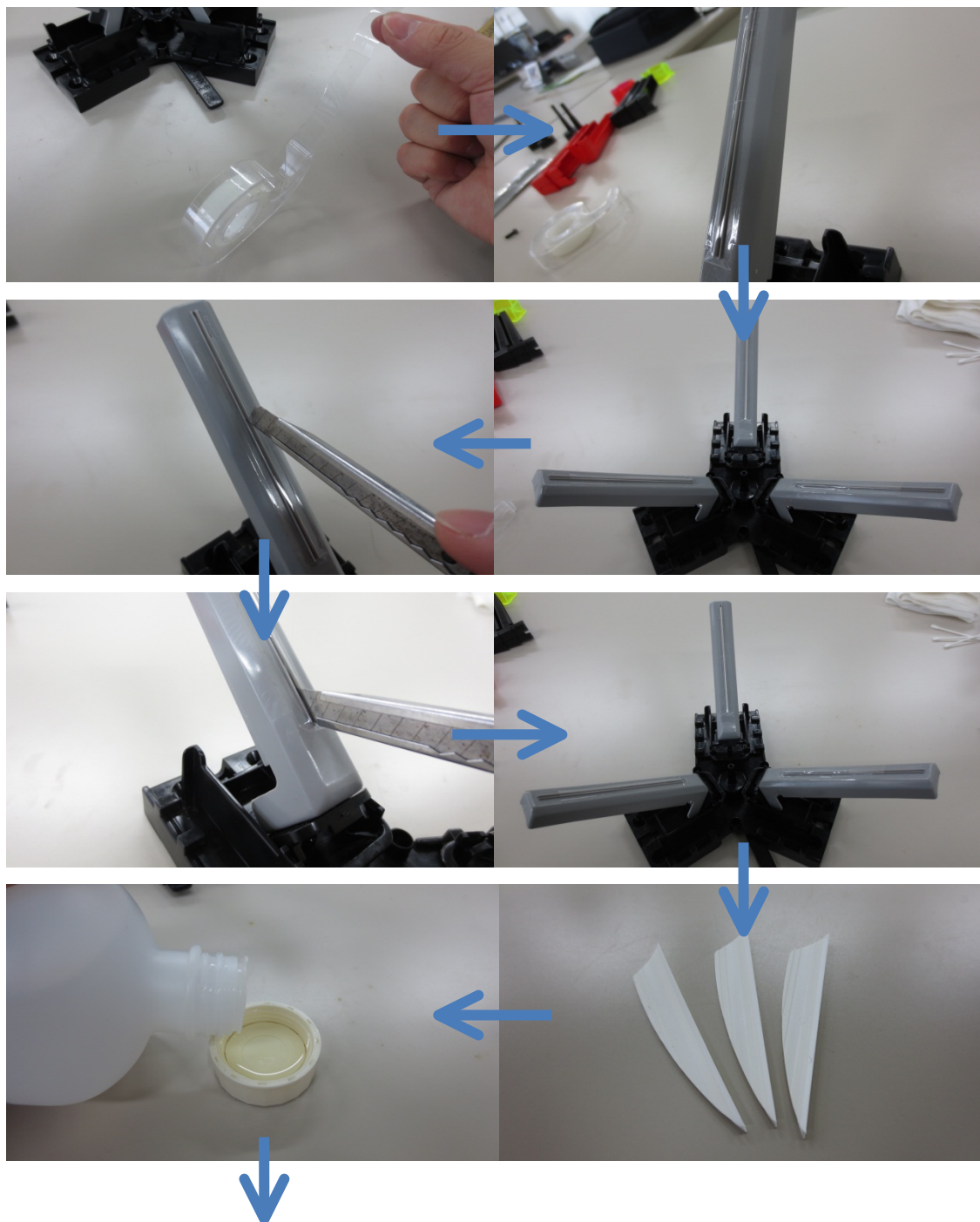


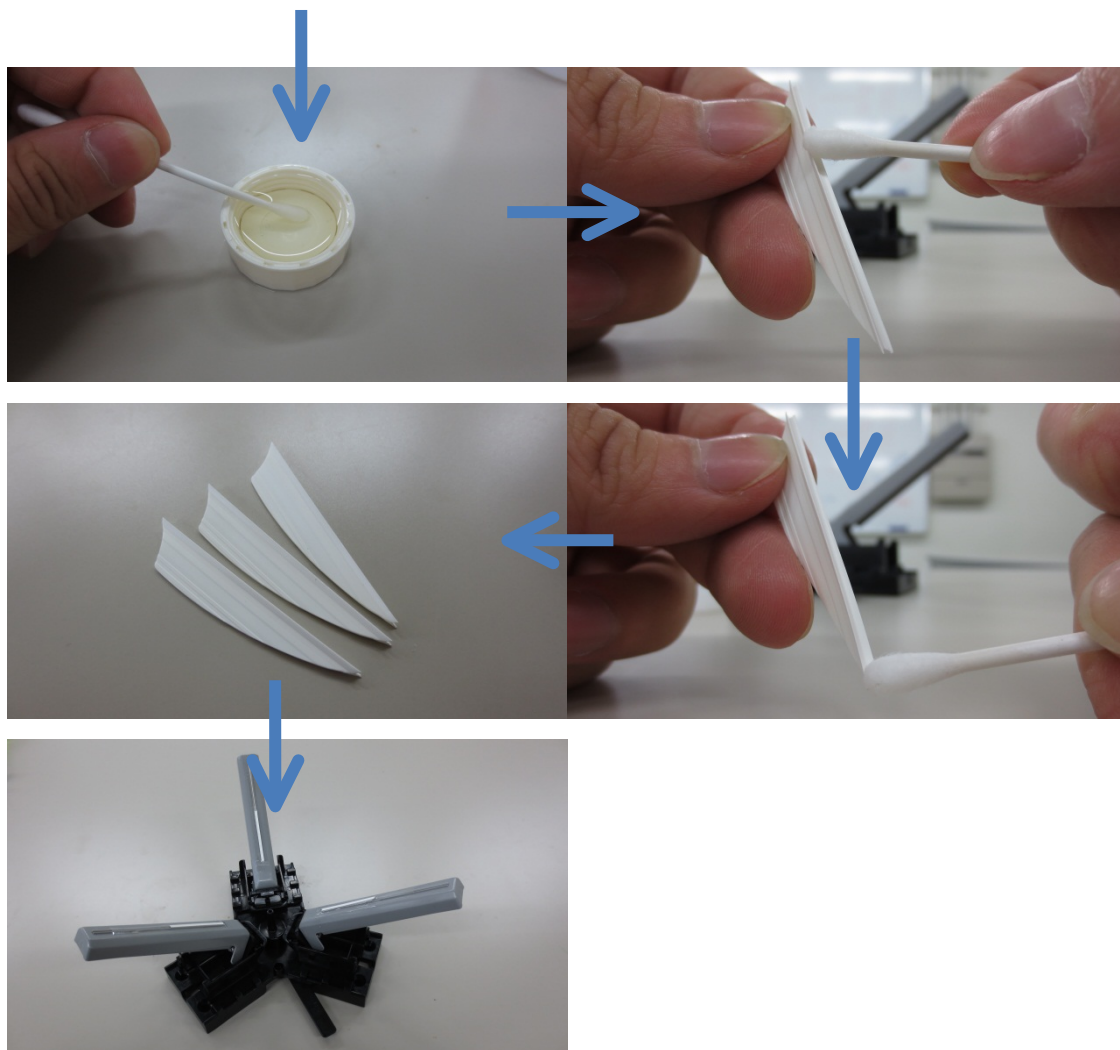
まず本体を裏返し、レバーをとりつけます(レバーの表裏に気をつけて下さい)。ネジを挿入し指で押さえながら裏返し、図 1.1②のポストの中から使用するものを選び装着します。次はアームの装着にはネジと六角ボルトを使用し固定しますが、本体のアーム装着部の下部は六角ボルトの溝があるのでボルトを溝にはめ、押さえながらアームを取り付けレンチによって固定することで本体の組み立てることができます。

1.3. 使用方法

写真に沿ってテープの貼付から羽根の貼付まで説明します。

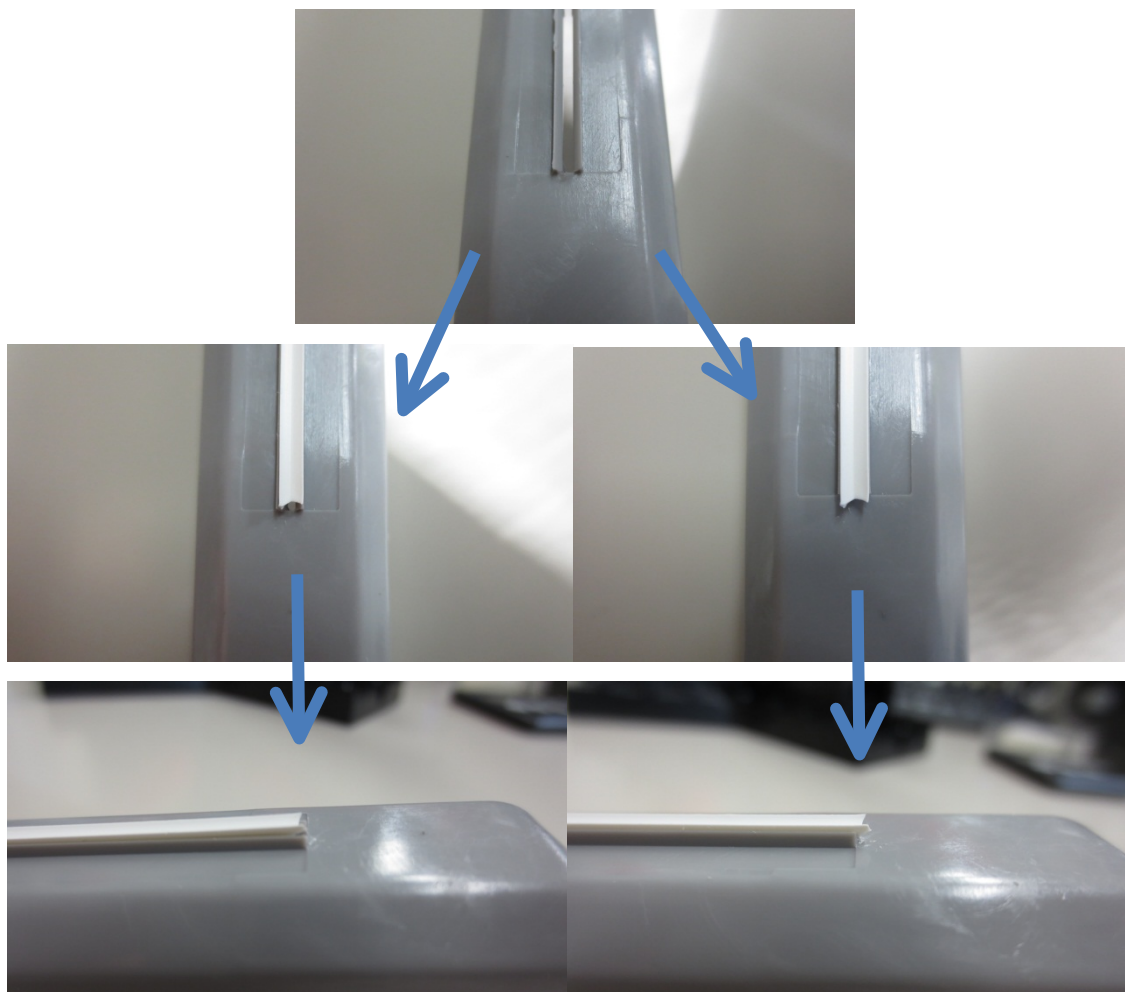
1.3.1 テープ貼付→羽根をセットするまで





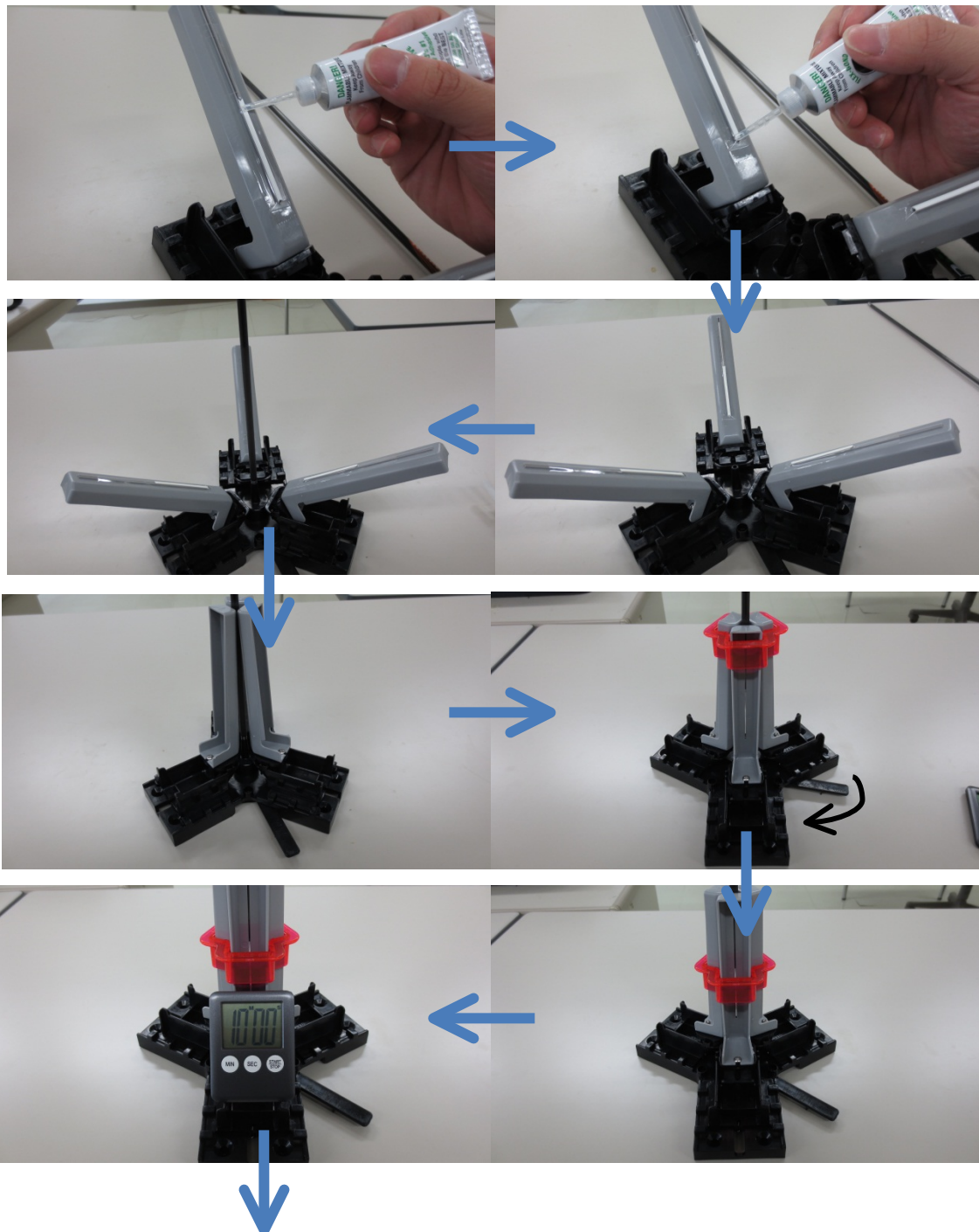
本体のアーム部分にテープを貼付後、溝に沿ってカッター等で羽根をセットするための切れ目を作ります。羽根はシャフトとの接着面にアルコール等で不着物を取り除いておきます(生産段階での微粒子や付着していたりとはがれやすくなる恐れがあるためです、接着面をきれいにした後は面部分にあまり触れないよう気を付けてください)。1枚テープを貼付けることによって羽根はセットした際ずれることはありませんが、幅が薄い羽根(AAE WAV等)や、それでもずれる場合はテープの貼付け枚数を増やすことでずれを抑えることができます。また、テープを貼りすぎている場合や幅の太い羽根を無理にセットし貼付を行うと、アームを解除する際に羽根を引きはがす可能性があります。ご注意ください。

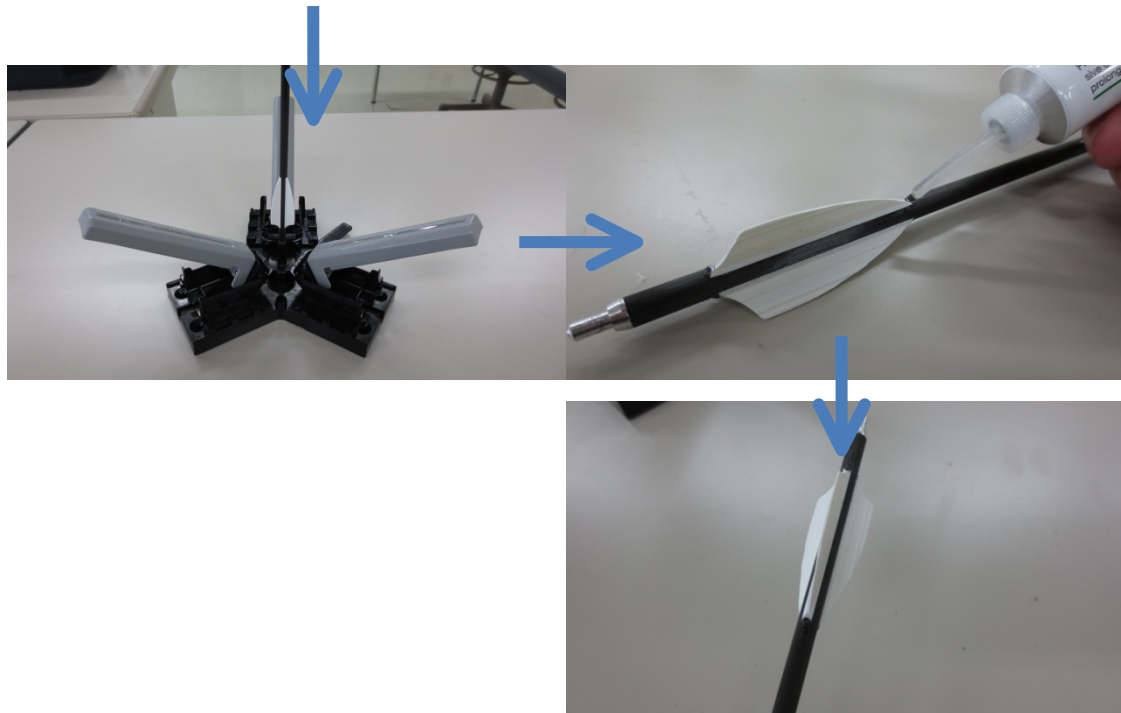
1.3.2 羽根をセットする際の注意点



セットする際に位置に気をつけてください。写真右側のように、セットした状態だと羽根によっては接着面の端の部分のはみ出す形になっており、貼りつける際にアームが端まで羽根を十分にシャフトにおさえつけることが出来ず、羽根のエンドからはがれてしまう原因となりますのでご注意ください。取り付け位置が3枚ずれていないかもご確認ください。

1.3.3 フレッチタイトの塗布→仕上がりまで





フレッチタイト(接着剤)で羽根の端から端までしっかりと全体に塗布し(盛りすぎないように注意してください)矢をポストに装着してください。塗布後はまずアームの先端部をシャフトにあてがい、リングを通し、パーを動かしリングを下まで移動させます(無理に下まで移動させすぎるとフレッチャー本体やシャフトを破損する場合がありますのでご注意ください)。接着剤によって時間は異なりますが、約10分後、リングを取り外し貼り付けた羽根のエンド(両端)にフレッチタイトを微量塗布し貼付は完了します。

1.4. パッケージを本体に戻す場合



ネジを外しアーム等の部品を外すことで、パッケージに本体を戻すことは可能です。

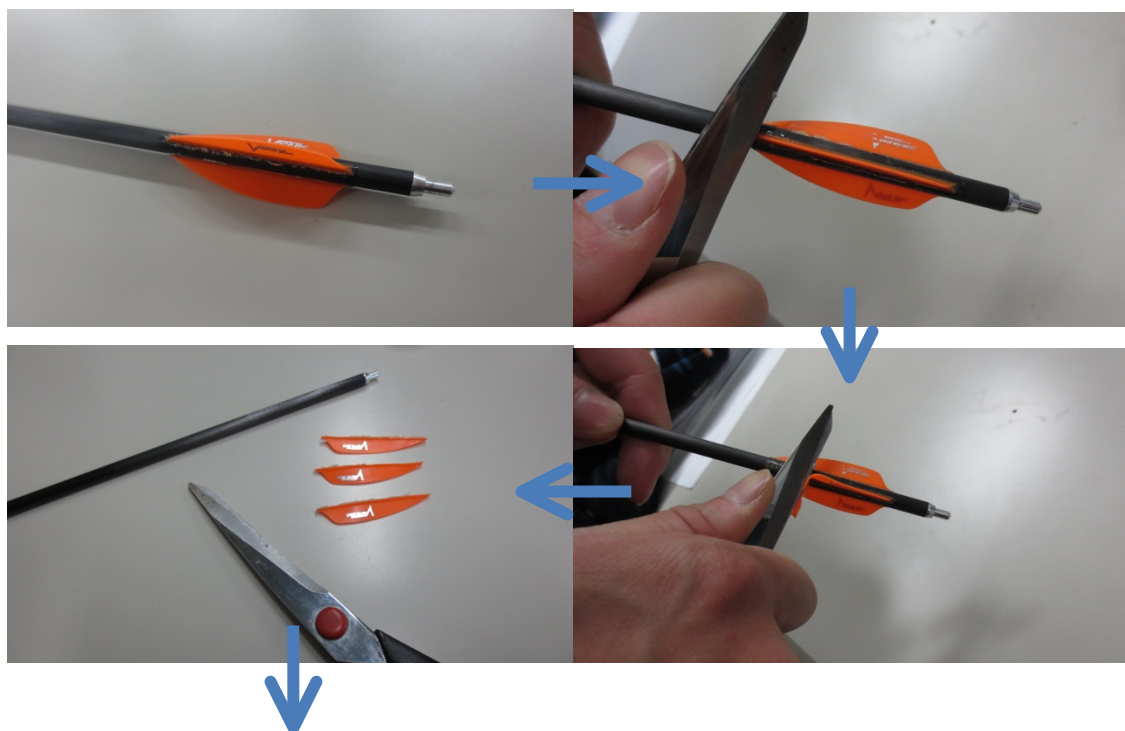
矢の羽根の除去や貼付まわりの洗浄方法(参考例)

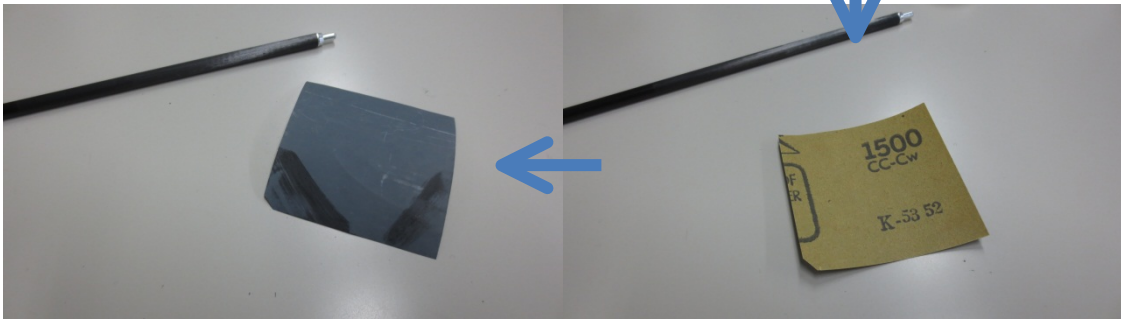
以前貼付されている羽根を取り外し、新しく羽根を貼付する際に羽根周りをきれいにすることは、不要な付着物によって偶発的に羽根が外れるというアクシデントを未然に防ぐために必要です。これは羽根の材質や種類にかかわらず必要であるため、各自行ってもらいたい。洗浄方法の例は数種類ありますが、今回は比較的簡単に行うことが出来る洗浄方法を紹介します(注:あくまでも参考です)。

今回説明する洗浄方法のため用意した道具は以下になります。

- ・ アルコール
- ・ はさみ (はさみ本来の機能は使用しません、シャフトに接着剤をある程度除去できるもの)
- ・ ティッシュペーパーまたはトイレットペーパーなどの紙製品
または、布製品
- ・ 紙やすり (1000 番以上の粒の目が細かいもの)

2.1. 羽根の除去





以前貼付された羽根の除去には今回ははさみの峰の部分を利用して除去を行います（あくまでも参考です）。はさみの峰部分等を貼付されている羽根の端にあてがい、矢の水平方向へ力を入れることで羽根の除去することができます。

また、はさみの峰部分等を使用して矢に付着している以前羽根を貼付する際に使用したフレッチタイトを取り除いておく、はさみの峰を使ってまだ残っている場合は紙やすりを使用して付着物を取り除く（紙やすりで必要以上に擦りすぎないように注意する）。



ここで、はさみやカッターの刃の部分を使用すると、羽根を取り除く際のはさみの力のベクトルを矢に大きく向けてしまった際に矢に損傷を与え、結果として、矢のパラドックスに影響を与える可能性や、行射の際に矢が剥離することで事故につながる原因となりますのでご注意ください。これらの方法で除去が困難である場合、『Bohning ストリッパー』や『EZE ストリップ』等、専用のストリッパーを使用することをお勧め致します。

4.2. 羽根貼付まわりの矢の洗浄



羽根を除去し、付着物を取り除いた後、矢にカーボンの粉や、油分が残っている可能性があるため、ティッシュペーパーやトイレットペーパー、または布製品にアルコールを適量染み込ませ、矢を拭きそれらを取り除きます。アルコールを染み込ませたペーパーまたは布製品は、引火しないよう安全に注意して処理してください。

以上が矢の羽根の除去や貼付まわりの洗浄方法の例です(あくまでも参考です)。

3. 謝辞

使用方法を作成するまで間、ご指導ご鞭撻を賜りました立命館大学体育会アーチェリー部 亀井孝コーチには心より深く感謝申し上げます。

最後に、私の学生生活を支えて頂いた全ての皆様に感謝の意を表します。ありがとうございました。(2013年9月)

4. 参考 URL

[1] a-rchery DOT net (URL: <http://www.a-rchery.net/>)

[2] Bohning (URL: <http://www.bohning.com>)

作成者 河野駿五 (立命館大学体育会アーチェリー部OB)